

大学が少ない地域の高校生の大学進学意識

筑波大学大学院 津多成輔

1. 問題の所在

2015年では大学進学率の都道府県差は最大で約40%となっている。また、義務教育修了後には、ほぼすべての生徒が高校に進学し、卒業時には「就職するか、進学するか」という選択が迫られる。この選択には進路先の所在地や費用などの検討事項が付随する。

この高校生の進路選択に影響を及ぼす要因としては、家庭背景や高校のタイプやランク（藤田1980）といったものがあるが、学業成績というメリトクラティックな要因を媒介するものが多い。これに対して、ジェンダー・トラック（中西1998）やローカル・トラック（吉川2001）は学業成績を媒介しないノンメリトクラティックな要因である。ノンメリトクラティックな要因の中には地域という視点があり、地域独自の教育文化が進路選択に影響を及ぼすこと（片瀬・阿部1997）が報告されている。本報告では、このような視座を参考に大学が少ない地域の高校生の大学進学意識を地域というノンメリトクラティックな要因から検討するものとして位置づけられる。

2. 方法

本報告は、高校3年生に対して実施した質問紙調査のデータを基に分析を行った。各調査の概要は以下の通りである。「高校生の大学進学意識に関する調査」（調査時期：2015年5月～6月、有効回答数：1572名（和歌山7校、茨城1校、静岡1校、長野1校、調査代表：津多成輔）、「東北地域における高校生の進路希望調査」¹（調査時期：2015年8月～9月、有効回答数：3834名（青森5校、岩手4校、福島6校）、調査代表：田中正弘）のデータを基に分析を行った。

3. 結果と結論

分析の結果、第一に、大学との“物理的”距離が大きい地域では、小さい地域に比べて相対的に大学進学希望の割合が小さいということが示された。この結果は、親の学歴や職業などを統制しても同様の結果が得られた。これは親の学歴や職業といった家庭背景とは独立した形での大学との“物理的”距離というノンメリトクラティックな要因の存在を示唆している。

第二に、大学との“物理的”距離を統制した上で、ジェンダー観の違いによる大学進学希望を検討したところ、大学との“物理的”距離が小さい地域では、ジェンダー観の違いによる影響があまり見られなかった。この結果は、ジェンダー・トラックの議論に新たな視座を与えるものである。

第三に、私立大学の入学定員数が大きい県では、私立大学への進学希望者の割合が大きく、県内進学、県外進学別に同様の検討をしても、その割合が維持されるという結果が得られた。

文献

- 藤田英典, 1980, 「進路選択のメカニズム」山村健・天野郁夫編『青年期の進路選択』有斐閣選書, 105-129.
- 片瀬一男・阿部晃士, 1997, 「沿岸地域における学歴主義と教育達成——『利口, 家もたず, 達者, 家もたず』」『教育社会学研究』61, 163-183.
- 吉川徹, 2001, 『学歴社会のローカル・トラック——地方からの大学進学』世界思想社.
- 中西祐子, 1998, 『ジェンダー・トラック——青年期女性の進路形成と教育組織の社会学』東洋館出版社.

¹ 「東北地域における高校生の進路希望調査」は科研費「東北地域の大学進学問題—教育社会学と比較教育学の研究手法の融合—」（研究課題番号：15K13170、代表者：田中正弘）で実施された。